

太田 奈那

OTA Nana

中核市の文化芸術振興に向けた一考察 ―愛知県 4 市における担い手への調査をもとに―

A Study of Promoting Culture and the Arts in Core Cities: Based on a Survey of Key Persons at Four Cities in Aichi Prefecture

芸術支援領域

序章

本研究では、愛知県の中核市における文化芸術振興のための取り組みや、その都市で文化芸術の振興に寄与する担い手に向けた調査をもとに、愛知県の中核市における文化芸術振興の特徴や課題を明らかにし、中核市の文化芸術振興に求められる視点を探ることを目指す。

近年、地域における文化芸術への関心が高まっている。創造都市論の広まりや文化芸術基本法の制定、芸術祭の開催などからも、その傾向が見て取れる。それに伴い、地域の文化芸術に関する様々な研究が行われてきた。しかし、大都市や小都市の文化芸術に着目した研究に比べ、中都市の文化芸術に着目した研究は少ない。中都市の文化芸術振興について考察するためには、複数の中都市の比較分析を通じた研究が必要であると考えた。

以上を踏まえて筆者は、中都市の中で最も数が多い中核市に着目し、愛知県の中核市を事例とした研究を行う。このような研究は、今後中核市における文化芸術政策や文化芸術活動の発展に資すると共に、地域と文化芸術に関する研究の視野を広げると考える。

本研究では、愛知県の中核市 4 市（豊橋市・岡崎市・豊田市・一宮市）を対象に研究を行う。同じ県内に大都市・中都市（中核市）・小都市が存在する愛知県は、中核市の特徴や課題を考察するのに適した地域だと考える。また、筆者は卒業研究において愛知県の豊橋市を研究対象とした。そこで得られた知見を活かしつつ、中核市の文化芸術振興に向けた考察を進める。

第 1 章 文化芸術と地域

文化芸術を地域に取り入れようとする昨今の動向の背景には、創造都市論の広まりがある。創造都市論とは、文化芸術の創造性をもって人を育て、都市を活性化させるという考え方である。この考え方が日本にも広まり、創造都市の成功事例も積み重なる中で、文化芸術の振興が地域の活性化・課題解決に貢献するという認識が根付きつつある。

文化芸術が地域を活性化するだけでなく、地域という場が文化芸術の価値を高め、新たな価値を生み出すことも重要である。文化芸術と地域は相互に影響を及ぼすものである。中核市において文化芸術振興を行う際にも、文化芸術により地域を発展させることと、地域の中で文化芸術を発展させること、両者のバランスを取りながら進めていく必要がある。

いくつかの先行研究では、文化芸術と地域間の作用が考察されている。筆者は先行研究などを基に、文化芸術が地域に与える効果を「経済的效果」「社会的効果」「心理的效果」の 3 つに分類した。これらは互いに影響し合い、地域社会全体に影響を及ぼしていると考ええる。

文化芸術振興の背景には、様々な担い手が存在する。先行研究では担い手同士の連携によって、単独の活動では得られない効果を発揮することが示唆されている。担い手が互いに連携することによって、より良い文化芸術振興が実現される可能性がある。

また、日本の文化芸術の振興に関する法律には、文化芸術基本法・文化財保護法・博物館法・劇場、音楽堂等の活性化に関する法律、障害者による文化芸術活動の推進に関する法律、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律などがある。これらの法律を見ると、すべての人が文化芸術活動に携わり心豊かに生活すること、そのために文化芸術の担い手らが連携を図ることが求められているとわかる。

第 2 章 愛知県の文化芸術

愛知県は日本の中部地方に位置する県の 1 つである。県庁所在地は名古屋市であり、東京と大阪に次ぐ日本の三大都市圏の中心地とされている。産業が盛んで、特に製造業をはじめとした工業が盛んである。

愛知県は尾張地方と三河地方という 2 つの地方に大別される。尾張地方は県の北西部に位置し、名古屋市や一宮市が含まれる。三河地方は県の南東部に位置し、豊橋市、岡崎市、豊田市が含まれる。こ

の 2 つの地方間では、産業・言語・社会状況・文化芸術などにおいていくつかの違いが見られる。

国の法律などを基に、愛知県では愛知県文化芸術振興条例やあいち文化芸術振興計画 2027 が定められている。

愛知県の中核市は豊橋市・岡崎市・豊田市・一宮市の 4 市である。4 市の人口はあまり大差がないが、面積については差が大きい。国や県の法律などを基に、豊橋市は豊橋市文化振興指針、岡崎市は岡崎市文化振興推進計画、豊田市は豊田市文化芸術振興計画を策定している。一宮市は文化芸術に特化した計画などは特に定めていない。また、4 市の自治体には、それぞれ文化芸術の振興を担う部署が複数存在している。4 市には文化芸術施設が複数あるが、そのほとんどは行政の管轄下にある。愛知県の中核市における文化芸術振興では、行政が果たす役割が大きいと考えられる。

第 3 章 担い手に向けた調査

文献にあたるだけでは、中核市の文化芸術振興を本質的に知ることは難しい。その地域における文化芸術振興の現状を最もよく知るのは、やはりその地域における文化芸術振興の担い手たちだろう。そこで筆者は中核市の文化芸術の特徴や課題を明らかにし、中核市の文化芸術振興のための方向性を探ることを目指して、担い手に向けたインタビュー調査を行う。

調査では、研究対象地である愛知県の 4 市において、実際に文化芸術の振興に寄与している団体や個人を対象とする。文化芸術の振興には、行政・企業・文化施設・NPO・市民など多様な担い手が関わっている。調査では幅広い視点を得るため、公的領域・民間領域・中間領域に属する担い手を都市ごとに選出する。それぞれの立場からの意見を基に、中核市の文化芸術振興を多角的に分析・考察することを目指す。

調査対象（13 か所・15 名）には、事前にメールなどで調査を依頼し、調査同意書を送付した。調査の同意を得た後、

2024 年 1 月から 2024 年 8 月の期間で担い手に向けた調査を実施した。その記録を逐語録にまとめ、その内容をもとに調査の分析を行った。

第 4 章 中核市における文化芸術振興

インタビュー調査の内容を分析した結果、愛知県の中核市における文化芸術には 11 の特徴や課題があると考えた。これらの特徴や課題は、都市の人口規模の捉え方の違いによって 3 つに分類することができる。

小都市と比較して中核市の人口が相対的に多いという視点に立つと、愛知県の中核市は経済的に豊かな傾向にあり、また、多種多様な文化芸術が存在すること、文化芸術に関わる人々の数が比較的多いことが言える。大都市と比較して中核市の人口が相対的に少ないという視点に立つと、愛知県の中核市は網羅的な取り組みがしやすいこと、文化芸術に関わる人が比較的に少ないこと、文化芸術活動を行う場が少ないこと、プロの文化芸術活動が少ないことが言える。また、大都市と小都市両方と比較して中核市の人口が多くもあり少なくもあるという視点に立つと、愛知県の中核市は文化芸術の担い手同士の連携がしやすいこと、保守的な意識があることが言える。さらにこれらの視点に共通する特徴として、アマチュア（市民）の文化芸術活動が活発であることが言える。

これらの特徴や課題には、いくつかの相互関係があると考えられる。さらに、その関係の中には、第 1 章で述べた文化芸術が地域に与える効果（経済的效果・社会的効果・心理的效果）に当てはめて考えられるものもある。これらを整理し、図 1 に示した。

ここまでの考察を踏まえて、筆者は中核市の文化芸術振興には、特に「文化芸術の担い手同士の連携促進」と「アマチュアの文化芸術活動の振興と支援」が重要だと考えた。

愛知県の 4 市を対象とした調査から、中核市は異なる立場の担い手が連携しや

すい地域であることが示唆された。この点を考慮し、様々な担い手同士が積極的に連携を図ることによって、中核市の文化芸術はいま以上に振興すると考察する。さらに、同調査から、中核市はアマチュア（市民）の文化芸術活動が活発化しやすい地域であることが示唆された。この点を考慮し、アマチュアの文化芸術活動を支援し、また文化芸術活動に関わるアマチュアを育成することを中核市全体で積極的に推進することによって、中核市の文化芸術はいま以上に振興すると考察する。

結章

本研究では、愛知県の中核市を対象に

調査を行い、中核市の文化芸術振興に求められる視点を導き出した。結果として一定の考察を得たが、それを確実なものにするためには、さらなる調査が必要である。例えば、都市の歴史や周辺都市との関係性といった、人口規模以外の観点からの分析が今後の課題となる。また、愛知県以外の都市への調査を行い、地域ごとの共通性や独自性を明らかにすることが求められる。

本研究の成果が中核市の文化芸術振興に関わる人々に共有されることで、中核市の文化芸術や地域が再評価されることを期待する。また、中核市・中都市の文化芸術の研究が進むことを期待する。

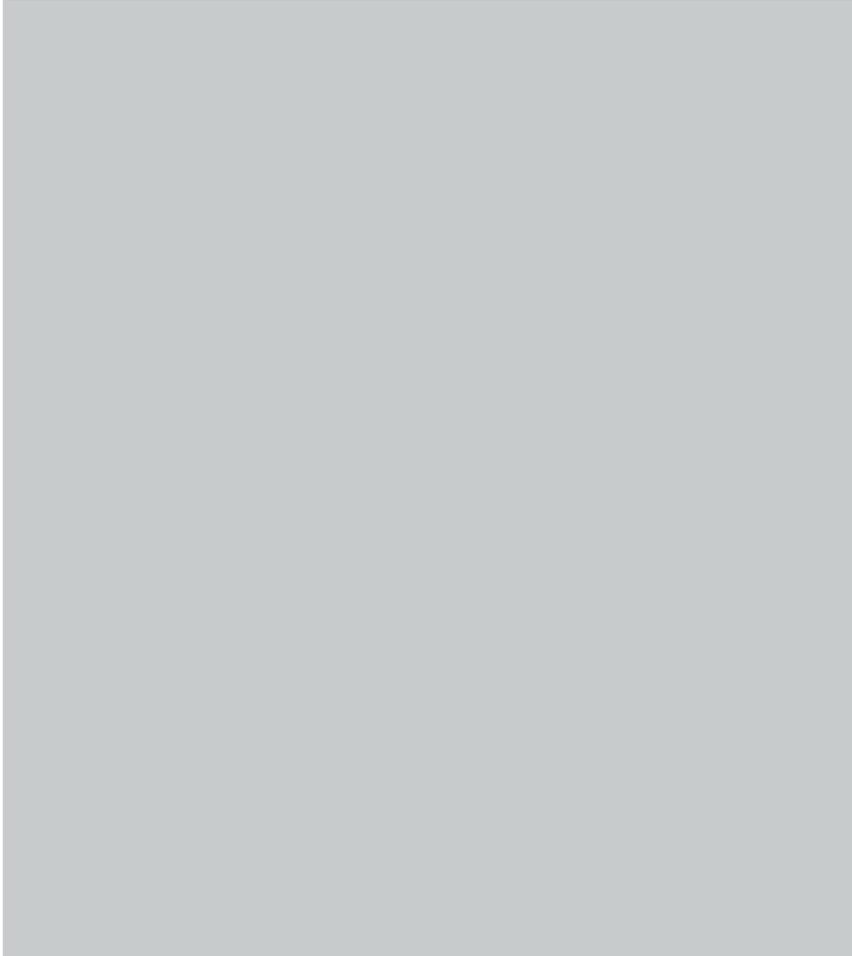


図 1 愛知県の中核市における文化芸術振興（筆者作成）